



## 日本医師会 常任理事就任の ご挨拶

日本医師会常任理事

細川 秀一（4回生）



2022年6月25日より日本医師会常任理事に就任しました、1981年卒業（4回生）の細川秀一です。現在日本医師会において、救急災害医療、医療安全、環境保健、労災・自賠責、検案等を担当させていただいております。

2024年には診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等のトリプル改定も控えており、全世代型社会保障の構築に向け、医療界におけるDXや医師の働き方改革など、医療界には直面する課題が山積しています。

藤医会の皆様は医師として、診療に明け暮れておられることと思います。一方で、医師に求められるのは目の前の患者さんを助けることだけではありません。例えば、病気を予防し、多くの人が健康に暮らせるようにすること。病気になったら、いつでもどこでも適切な医療を受けられるようにすること。医療提供体制を整えるよう、国や地方自治体に働きかけること。一人一人の医師が、知識や技術を存分に高め、安心して診療に従事できるような仕組みを作ること。これらのことを、中心になって行っているのが医師会です。

私も実際に、担当しております救急災害医療の分野において、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害など、現地に赴き被災者の健康支援などを行ってまいりました。

様々な社会活動への参加により、医師としての見識も広がります。自分の守備範囲をできるだけ広げ、専門分野や所属する組織の仕事だけではなく、外に出て多彩な活動に関わっていただきたいと思います。例えば勤務医であれば基礎研究や教育、開業医なら学校医・産業医・予防接種・一次救急・看護学校の講師など、できる限り自分の領域を増やしていただきたいと思います。

そして、地域に根差して診療している医師は、自らの分野の診療のみならず、地域住民の健康を守るために連携して活動を行い、それぞれの地域を面として支えています。医師会はそうした活動を支え、深く関与して運営しています。

国民が必要な時に必要な医療を受けられるようにするためにも、地域に

根差して診療をされている先生方には深く感謝いたしますとともに、引き続きご協力を賜りたく存じます。

医師会は、専門職としての医師を様々な角度から支援するとともに、国民の生命と健康を守るために、幅広く活動しています。その実態を若い先生方にもっと知っていただき、医師会を通じて地域や社会に貢献する活動を共にしていただきたいと思っています。

未来の医師会、そして未来の医療をより良いものにするためにも、ぜひ若い先生方の声を私たちに届けていただきたいと考えております。

このため、日本医師会では、2015年度から臨床研修医の会費無料化を実施しています。さらに2023年度からは、会費減免期間を医学部卒業後5年まで延長し、この5年の間に、若い先生方にも医師会が果たす社会的役割の大きさや医師会活動の重要性への理解を深めていただくよう努めて参る所存です。

また、2024年度より医師の働き方改革が開始されますが、「地域医療の継続性」と「医師の健康への配慮」の2つを両立することが重要であり、両者のバランスが取れているか常に振り返ることが大切です。

日本医師会はすべての医師を代表する団体であり、藤医会の先生方はじめ、より多くの先生方と共にわが国のより良い医療を実現する所存です。そして、地域医師会、病院団体等の関係団体との連携に努め、皆様のご意見を伺いながら、信頼される医師会を目指して参りたいと思います。

そのためにも、藤医会の先生方のご支援は不可欠だと考えております。ご指導・ご鞭撻のほどよろしく願いたします。

